

519) 早帰り

朝、家を出るとき、何でも今日は内装屋さんが来て、部屋の壁紙を取り替えることになっていると言うことは女房殿から聞いていました。会社の帰りに得意先に立ち寄って直帰するつもりだったから、女房殿には得意先と一杯やってから帰るから遅くなると言って出たのでありましたが、得意先の都合が悪くなったために、久しぶりにまっすぐ家に帰ることにしたのであります。まっ、ちょっと速いが、たまには6時帰りもいいなと思いつつ、家に着くと女房殿は外出の様子でベルを押しても応答がありません。そこで私はやおら合鍵を取り出して、中にはいると、暗闇の中から男がこちらに寄ってくるではありませんか。私はびっくりして慌てて外に飛び出しました。また他人の家に入り込んでしまったかと疑ったからであります。しかし表札を見ると間違いなく我が家である。これはおかしい。そうだ110番だ。きっと空き巣か何かが入っているに違いない。最近、近所で殺人事件もあったことだし、気をつけないと。そうこうしているうちにパトカーがやってきて事情を説明していると、女房殿も帰ってきた。さっきまで内装屋さんがいて、今買い物に行ってきたのだと言う。それで恐る恐るお巡りさんと女房と三人で中にはいると。何と玄関に入ったところには、ドデカイ鏡が取り付けられていた。空き巣と思ったのは自分の影だったのであります。お巡りさんに人騒がせを咎められ、女房殿にはこの意気地無しと罵られたことは言うまでもありません。